

スーパーマーケット販売統計調査資料

2021年8月実績 速報版(パネル270)

7月実績 確報版(パネル270)

(2021年9月21日公表)

調査資料概要

【パネル270社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:前月販売実績を速報値として公表 確報版:速報値に精度の高い集計を加え確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較 既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮三部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚物、弁当、おにぎり、寿司、インスタアベーカー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
		非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具
その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業(DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)		

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城。山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州地方・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄
北日本日本海側	北海道の日本海側とオホーツク海側(宗谷南部)、東北日本海側
太平洋側	北海道の太平洋側とオホーツク海側(網走・北見・紋別地方)、東北太平洋側
東日本日本海側	北陸地方
太平洋側	関東甲信、東海地方
西日本日本海側	近畿日本海側、山陰、九州北部地方
太平洋側	近畿太平洋側、山陽、四国、九州南部
沖縄・奄美	鹿児島県奄美地方、沖縄地方

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2021年9月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2021年8月実績 速報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)	2019年同月比 (全店)	2019年同月比 (既存店)
総売上高	105,324,097	100.0%	98.5%	97.6%	104.4%	103.7%
食品合計	96,970,221	92.1%	99.0%	98.0%	106.0%	105.0%
生鮮3部門合計	36,742,288	34.9%	96.7%	95.7%	108.2%	107.0%
青果	14,912,081	14.2%	92.3%	91.5%	107.6%	106.7%
水産	9,349,293	8.9%	99.1%	97.9%	107.3%	105.8%
畜産	12,480,915	11.9%	100.6%	99.3%	109.7%	108.5%
惣菜	11,206,468	10.6%	103.7%	102.3%	104.3%	102.7%
日配	20,975,275	19.9%	99.7%	98.7%	106.8%	105.8%
一般食品	28,046,190	26.6%	99.8%	98.9%	103.6%	103.1%
非食品	5,893,347	5.6%	92.2%	92.4%	93.9%	96.3%
その他	2,460,592	2.3%	94.4%	94.6%	84.1%	83.8%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	14,338,007	43	100.3%	99.6%
関東地方	38,943,909	73	98.8%	98.3%
中部地方	12,707,042	53	97.9%	97.1%
近畿地方	23,536,636	44	98.0%	96.9%
中国・四国地方	10,451,813	34	99.2%	97.1%
九州・沖縄地方	5,346,690	23	92.9%	93.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	681,164	46	95.1%	95.1%
4~10店舗	4,689,632	81	95.2%	94.6%
11~25店舗	10,484,450	54	99.0%	98.0%
26~50店舗	17,762,981	44	97.6%	96.7%
51店舗以上	71,705,870	45	99.0%	98.0%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	103,718,612	
総店舗数 (店舗)	8,264	店舗平均月商 (万円)	12,745	
総売場面積 (㎡)	13,735,985	売場 1㎡あたり売上高 (万円)	7.7	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

※前々年比集計 (既存店) : 前々年比と当月で保有店舗数に変化のない企業を対象

2021年9月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
 一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
 オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査
 2021年7月実績 確報版 (パネル270)

	全店売上高 (万円)	構成比	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
総売上高	98,258,115	100.0%	100.5%	99.5%
食品合計	89,393,657	91.0%	101.0%	99.9%
生鮮3部門合計	33,234,270	33.8%	97.2%	96.1%
青果	13,254,927	13.5%	96.5%	95.5%
水産	8,846,211	9.0%	98.0%	96.8%
畜産	11,133,132	11.3%	97.4%	96.3%
惣菜	10,473,312	10.7%	107.6%	106.2%
日配	19,758,837	20.1%	102.8%	101.7%
一般食品	25,927,238	26.4%	102.1%	101.2%
非食品	6,512,876	6.6%	95.7%	95.2%
その他	2,351,624	2.4%	97.1%	97.3%

地方分類別集計

エリア	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
北海道・東北地方	13,293,268	43	101.8%	101.4%
関東地方	36,209,869	73	100.7%	99.8%
中部地方	11,843,609	53	101.5%	99.9%
近畿地方	21,974,502	44	98.9%	98.0%
中国・四国地方	9,914,409	34	102.5%	101.0%
九州・沖縄地方	5,022,457	23	97.9%	97.3%

保有店舗数別集計

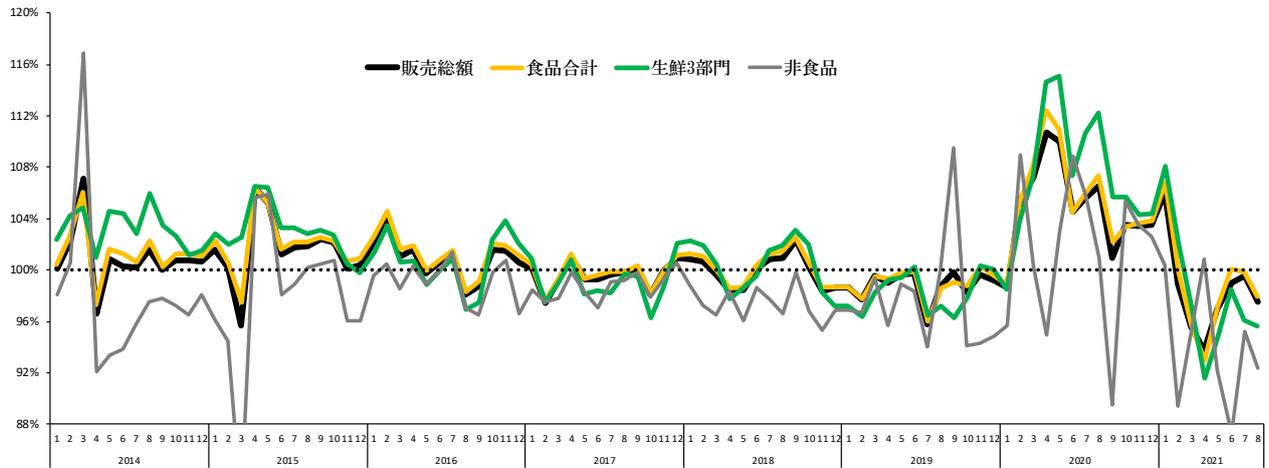
保有店舗数	全店売上高 (万円)	集計対象企業数	前年同月比 (全店)	前年同月比 (既存店)
1~3店舗	625,260	46	96.5%	96.3%
4~10店舗	4,369,176	81	94.6%	95.0%
11~25店舗	9,763,292	54	100.5%	99.9%
26~50店舗	16,775,557	44	100.2%	99.2%
51店舗以上	66,724,830	45	101.0%	99.8%
集計企業数 (社)	270	既存店総売上高 (万円)	96,370,074	
総店舗数 (店舗)	8,266	店舗平均月商 (万円)	11,887	
総売場面積 (㎡)	13,712,660	売場1㎡あたり売上高 (万円)	7.2	

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2014年1月～

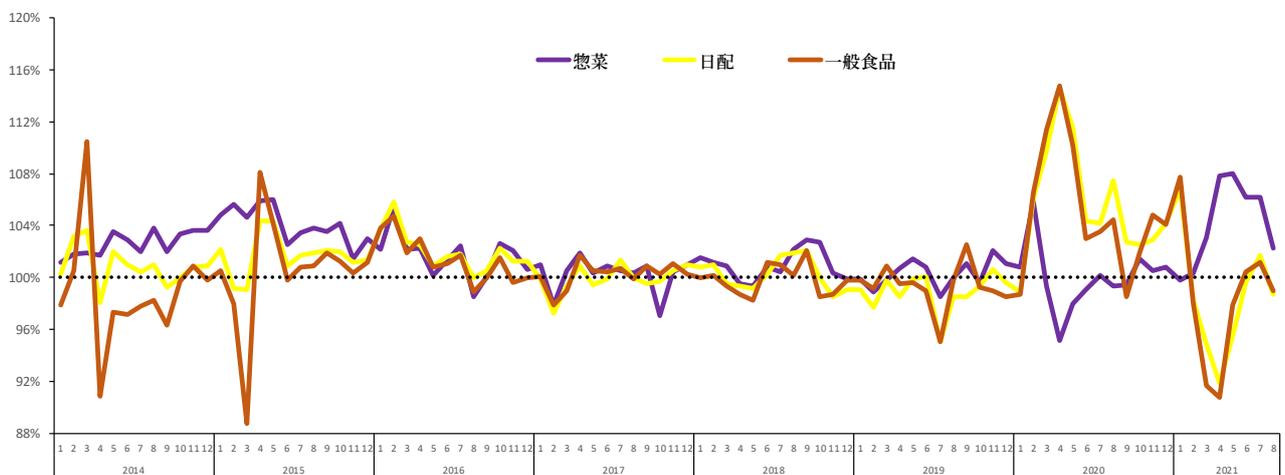
総売上高・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2021年8月実績は速報版

2021年8月エリア別気候状況

気温の特徴：西日本と沖縄・奄美で低かった。北・東日本では平年並だった

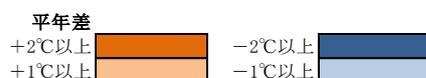
上旬：北日本でかなり高く、東日本で高かった。一方、沖縄・奄美で低かった。

中旬：北・東・西日本でかなり低く、沖縄・奄美で低かった。

下旬：北・東・西日本で高かった。

2020年8月との比較：上旬は北日本と東日本大洋側で高く、中旬は全国的にかなり低かった。下旬は全国的に低かった。

	平年との比較 (°C)						今年と前年との差 (°C)		
	2021年8月			2020年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	2.6	-2.7	1.1	0.4	1.3	1.2	2.2	-4.0	-0.1
太平洋側	2.2	-3.0	1.3	0.8	2.7	1.1	1.4	-5.7	0.2
東日本 日本海側	1.4	-2.7	0.7	0.1	1.6	2.5	1.3	-4.3	-1.8
太平洋側	1.1	-2.3	1.5	0.6	2.8	2.2	0.5	-5.1	-0.7
西日本 日本海側	0.4	-3.2	0.8	0.5	1.7	2.1	-0.1	-4.9	-1.3
太平洋側	0.3	-3.1	0.5	0.4	2.0	1.8	-0.1	-5.1	-1.3
沖縄・奄美	-0.5	-0.5	0.2	0.3	0.7	0.1	-0.8	-1.2	0.1



日照時間の特徴：西日本でかなり少なく、東日本で少なかった

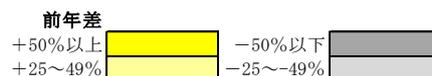
上旬：沖縄・奄美でかなり少なかった。北・東・西日本では平年並だった。

中旬：東・西日本でかなり少なかった。一方、北日本日本海側で多かった。

下旬：沖縄・奄美でかなり多かった。北・東・西日本では平年並だった。

2020年8月との比較：中旬は北日本日本海側を除いて全国的にかなり少なかった。下旬は沖縄・奄美を除いて少なかった。

	日照時間 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年8月			2020年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	100	114	96	78	100	133	22	14	-37
太平洋側	106	91	102	81	161	124	25	-70	-22
東日本 日本海側	115	41	84	85	117	155	30	-76	-71
太平洋側	112	41	108	117	162	138	-5	-121	-30
西日本 日本海側	106	23	83	89	152	138	17	-129	-55
太平洋側	103	10	110	106	161	132	-3	-151	-22
沖縄・奄美	59	96	129	102	126	63	-43	-30	66



降水量の特徴：東日本太平洋側と西日本でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側で多かった

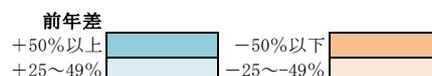
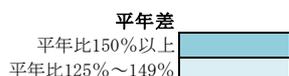
上旬：北・東日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。

中旬：東・西日本でかなり多く、北日本太平洋側で多かった。一方、北日本日本海側で少なかった。

下旬：北日本日本海側と東日本、西日本太平洋側で少なかった。

2020年8月との比較：上旬から中旬にかけて北日本日本海側と沖縄・奄美を除いて前年に比べかなり多かった。

	降水量 平年比 (%)						今年と前年との差 (%)		
	2021年8月			2020年8月 (前年)			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北日本 日本海側	110	56	73	184	69	90	-74	-13	-17
太平洋側	229	150	82	88	47	88	141	103	-6
東日本 日本海側	153	259	59	156	59	14	-3	200	45
太平洋側	228	483	31	12	14	55	216	469	-24
西日本 日本海側	325	768	72	68	27	40	257	741	32
太平洋側	140	766	28	10	8	72	130	758	-44
沖縄・奄美	121	51	53	143	32	349	-22	19	-296



気象庁報道資料「8月の気候」を参考に事務局作成
平年値は過去30年（1991年～2020年）の平均

スーパーマーケット景気動向調査

2021年9月調査結果（8月実績）
（2021年9月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

9月調査（8月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は小幅に低下

8月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は、前月から-1.4の40.6、見通し判断は前月から-0.4の37.1となり、現状判断は小幅に低下した。

経営動向調査は、売上高DIは小幅にマイナス幅を拡大、収益DIは前月から大きな変化はなかった。お盆以降の天候不良による青果相場が高騰、畜産相場の高値傾向により、生鮮品仕入れ原価DIが6.8まで上昇した。一方でお盆期間に長雨が直撃、今年も帰省を見送る傾向が強くなり、また感染拡大による買物頻度の減少などにより、来客数DIは大幅な低下となった。

カテゴリー動向調査では、相場が乱高下した青果DIが-28.0と大幅なマイナスとなった一方で、緊急事態宣言の延長もあり、畜産DIや水産DIはマイナス幅を大幅に縮小。しかし、中旬以降の気温低下により夏物商材が不振で、日配品や一般食品は伸び悩んだ。惣菜DIは自宅でのオリンピック・パラリンピック観戦需要も追い風となり、プラスを維持した。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、現状判断の一部に小幅な悪化がみられたものの、全体的に大きな基調の変化はみられず、ほぼ前月水準での推移となった。（長期傾向についてはP11参照）

飲食店への時短や酒類提供自粛などの要請が続き、家飲み、家庭内消費需要は堅調に推移した。一方で、長雨や気温の大幅低下による季節商材の不振や相場の乱高下、買物頻度の減少などの影響を受けた。振れ幅が大きい傾向が続く前年同月比だが、内訳には好不調要因が入り混じり、部門単位では実態が把握しにくい状況となっている。今後も刻々と変化する消費行動に柔軟な対応が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：40.6 (-1.4) 前月：42.0	消費者購買意欲DI 当月：45.0 (+1.4) 前月：43.6	周辺地域 競合状況DI 当月：41.3 (-0.9) 前月：42.2	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：41.2 (-1.6) 前月：42.8
--------------------------------------------	-----------------------------------------------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------

見通し判断

景気判断DI 当月：37.1 (-0.4) 前月：37.5	消費者購買意欲DI 当月：43.3 (+2.2) 前月：41.1	周辺地域 競合状況DI 当月：40.5 (-0.2) 前月：40.7	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：39.8 (-0.4) 前月：40.2
--------------------------------------------	-----------------------------------------------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：-13.4 (-4.4) 前月：-9.0	客単価DI 当月：2.6 (+6.3) 前月：-3.7	来客数DI 当月：-15.5 (-6.1) 前月：-9.4	
収益DI 当月：-11.1 (+0.3) 前月：-11.4	販売価格DI 当月：-0.2 (+1.9) 前月：-2.1	生鮮品仕入れ原価DI 当月：6.8 (+4.1) 前月：2.7	食品仕入原価DI 当月：5.6 (-1.0) 前月：6.6

カテゴリー動向

青果DI 当月：-28.0 (-7.9) 前月：-20.1	水産DI 当月：-9.0 (+6.1) 前月：-15.1	畜産DI 当月：-1.1 (+15.0) 前月：-16.1	
惣菜DI 当月：7.6 (-6.3) 前月：13.9	日配DI 当月：-6.8 (-6.2) 前月：-0.6	一般食品DI 当月：-6.8 (-4.8) 前月：-2.0	非食品DI 当月：-21.6 (-2.9) 前月：-18.7

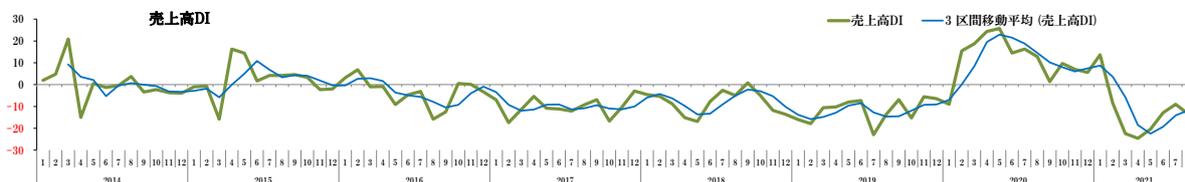
※DI値は前年同月との比較／○内は前月DIからの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

お盆苦戦でマイナス幅拡大

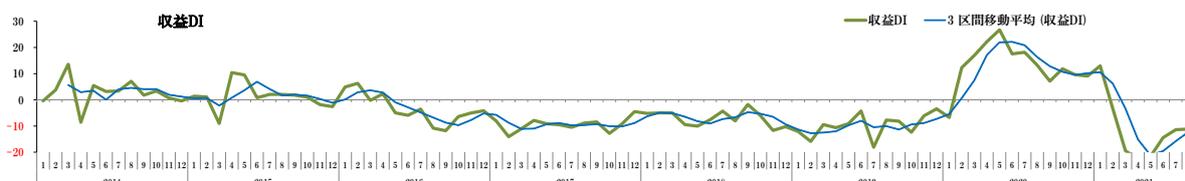
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	12.6	38.3	25.1	20.8	3.3	-9.0
売上高 (当月)	14.8	44.4	25.3	10.5	4.9	-13.4



2. 収益DI

前月からほぼ同水準で推移

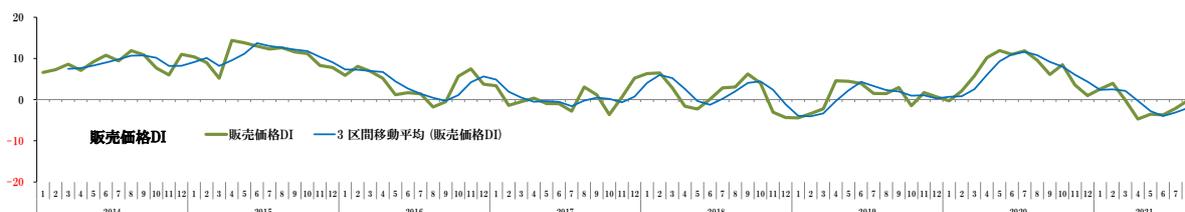
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	15.6	36.1	29.4	16.1	2.8	-11.4
収益 (当月)	15.3	38.2	26.8	15.3	4.5	-11.1



3. 販売価格DI

マイナス幅を縮小

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	1.7	18.4	66.5	13.4	0.0	-2.1
販売価格 (当月)	0.6	16.0	67.5	15.3	0.6	-0.2



4. 客単価DI

3月以来のプラス域に回復

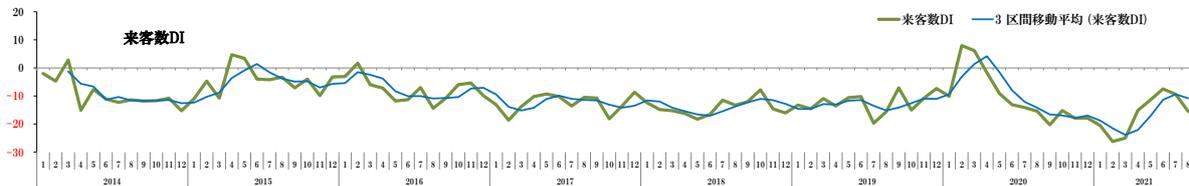
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	5.0	29.3	42.5	22.1	1.1	-3.7
客単価 (当月)	3.7	19.8	40.1	35.2	1.2	2.6



5. 来客数 DI

ややマイナス幅を拡大

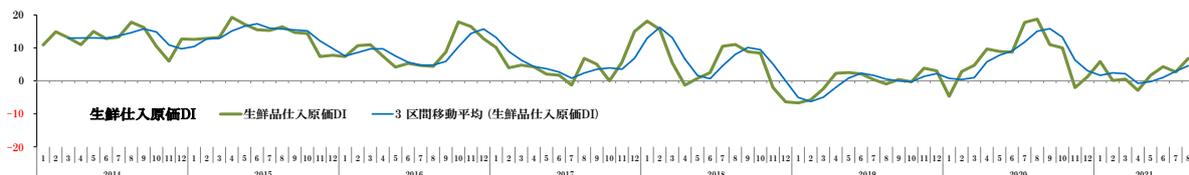
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	13.3	34.3	31.5	18.8	2.2	-9.4
来客数 (当月)	16.1	48.4	19.9	12.4	3.1	-15.5



6. 生鮮仕入原価 DI

上昇しプラス幅を拡大

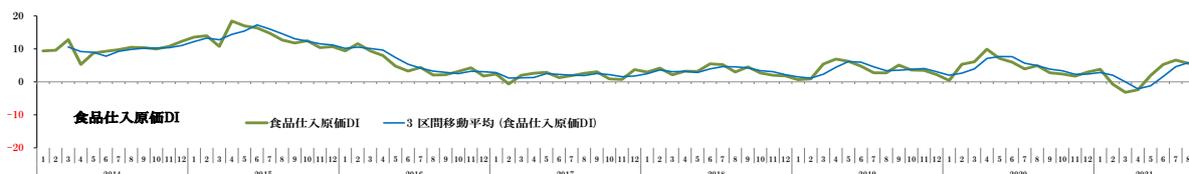
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	18.3	50.9	28.0	1.7	2.7
生鮮仕入原価 (当月)	1.9	14.6	43.0	35.4	5.1	6.8



7. 食品仕入原価 DI

プラス域ではほぼ前月水準で推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	1.7	6.8	57.1	32.2	2.3	6.6
食品仕入原価 (当月)	1.3	10.0	56.3	30.0	2.5	5.6

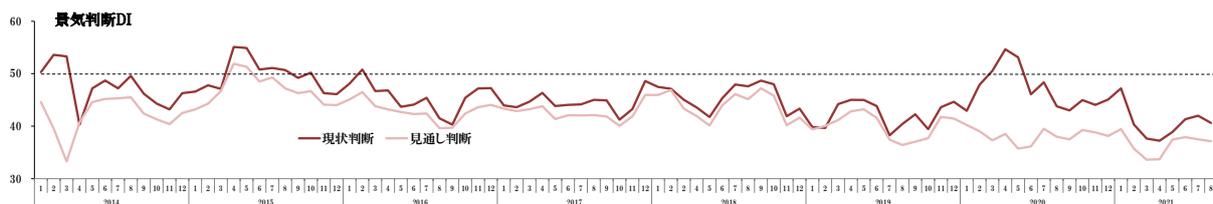


Ⅱ. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は横ばい推移

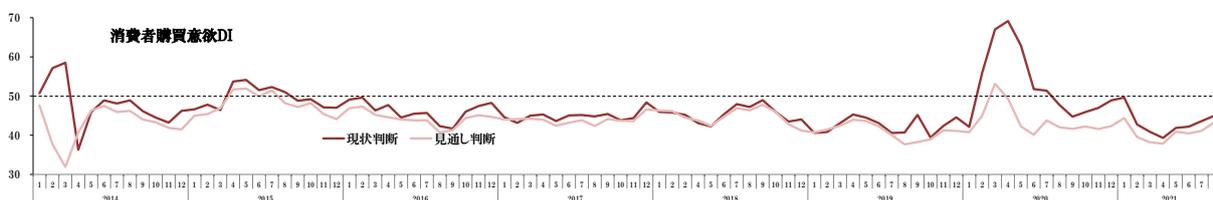
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	4.3	32.1	54.9	8.7	0.0	42.0
【現状】景況判断 (当月)	4.8	33.3	56.4	5.5	0.0	40.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	6.5	39.7	51.1	2.7	0.0	37.5
【見通し】景況判断 (当月)	6.7	40.0	51.5	1.8	0.0	37.1



2. 消費者購買意欲 DI

現状、見通し判断ともに小幅に改善

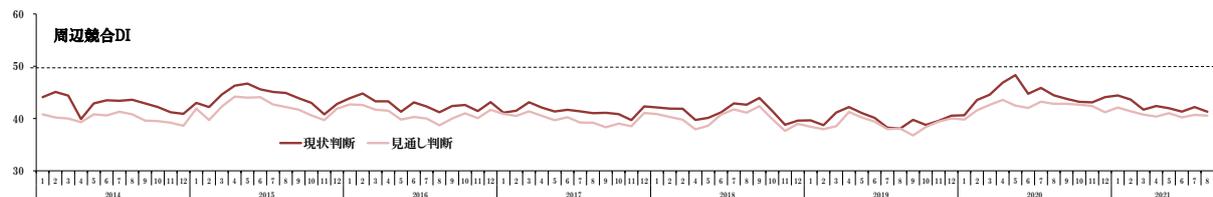
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	30.4	61.4	7.1	0.0	43.6
【現状】購買意欲 (当月)	1.2	27.9	61.2	9.1	0.6	45.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	1.6	35.0	60.7	2.7	0.0	41.1
【見通し】購買意欲 (当月)	1.8	29.1	63.6	4.8	0.6	43.3



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通し判断ともに前月水準

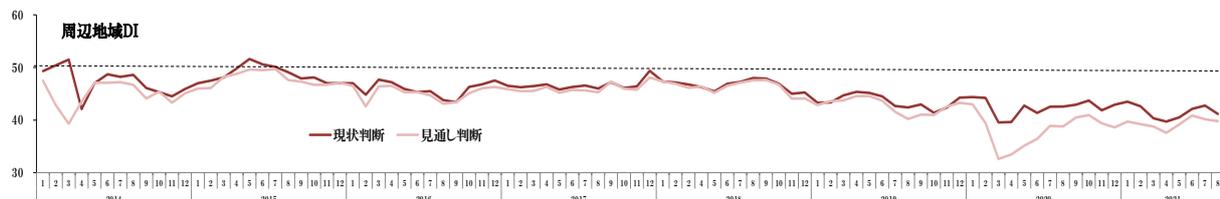
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.8	24.0	71.6	0.5	0.0	42.2
【現状】競合状況 (当月)	4.9	25.0	70.1	0.0	0.0	41.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	4.9	27.9	66.7	0.5	0.0	40.7
【見通し】競合状況 (当月)	6.1	26.8	65.9	1.2	0.0	40.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は横ばい推移

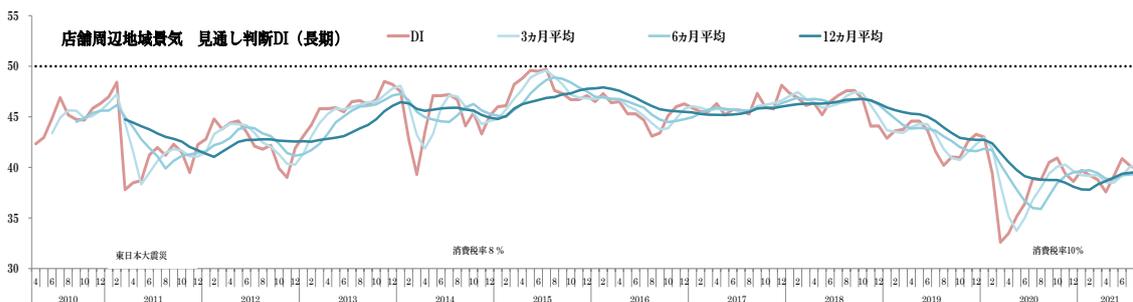
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	1.1	29.0	67.8	2.2	0.0	42.8
【現状】地域景気 (当月)	2.4	31.1	65.9	0.6	0.0	41.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	2.2	35.5	61.7	0.5	0.0	40.2
【見通し】地域景気 (当月)	3.0	36.0	59.8	1.2	0.0	39.8



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向 (2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

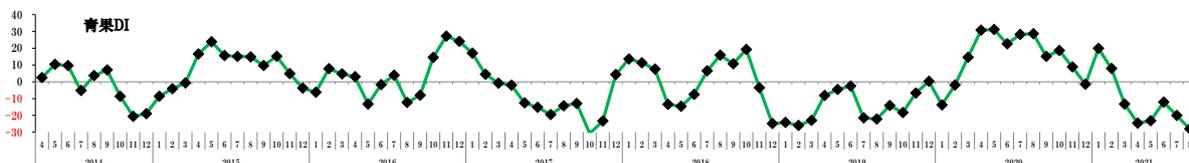
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げており、19年7月には現状判断DIは42.3まで低下した。20年2月に大幅に悪化したのが、5月から10月まで持ち直しの動きが続いた。その後21年2月からは悪化するも、5月以降は小幅ながら改善傾向が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-28.0（かなり不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	26.6	42.4	17.5	11.9	1.7	-20.1
青果（当月）	35.9	45.5	14.7	2.6	1.3	-28.0

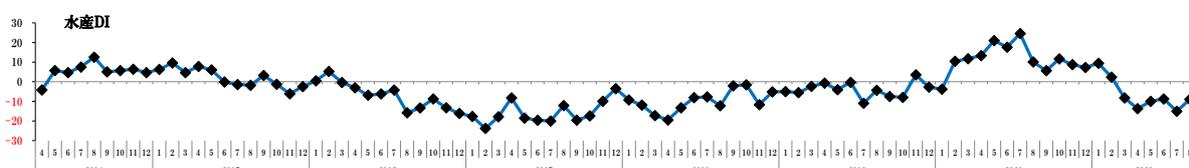


お盆前までは、前年長雨により高騰した青果相場が安値で推移し、単価の下落影響を受けた。お盆以降は、一転して全国的な天候不良により相場が高騰したほか、品質の低下や入荷不足の影響を受けた。保存が利く野菜として堅調に推移してきたタマネギやじゃがいもなど土物類は、反動減がみられた。上旬動きのよかった洋菜、キュウリなどのサラダ商材、ネギなどの薬味、香味商材は中旬以降の気温の急低下により伸び悩んだ。

国産果物はスイカやメロン、桃などが好調に推移し、カットフルーツも動く、前年並みを確保した店舗が多かった。今年もお盆の帰省が回復せず、贈答品の動きが悪いとのコメントがみられた。

2. 水産DI：-9.0（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	17.0	44.9	23.9	9.7	4.5	-15.1
水産（当月）	10.3	40.0	31.6	11.6	6.5	-9.0



在宅傾向により、簡便調理商品や、保存の利く塩干、冷凍加工品などに回復傾向がみられた。マグロやカツオなど刺身類、魚卵・珍味などは、帰省客減少により大型パックの動きは悪い一方で、オリンピック・パラリンピック観戦などを追い風に、少量パックが好調となった。前年は土用の二の丑の日で好調だったうなぎは伸び悩んだ。生魚や切身については不漁により入荷が不安定となった魚種が多く、不振となった。

3. 畜産DI：-1.1（やや不調）

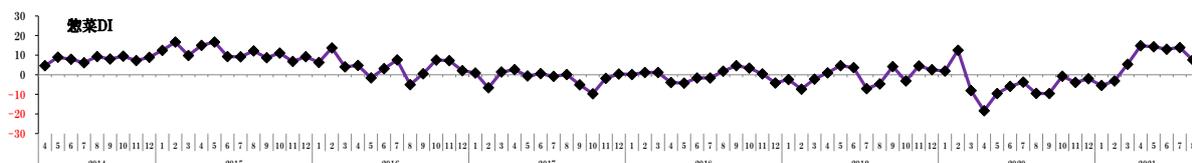
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	18.4	44.3	23.6	10.9	2.9	-16.1
畜産（当月）	8.4	27.1	32.3	25.2	7.1	-1.1



天候不良や在宅傾向の高止まりにより、バーベキュー用食材が不振となる一方で、保存に優れた畜産品の需要は再び拡大傾向がみられた。牛肉は焼肉、ステーキ用が好調となったが、和牛は前年より価格が高く伸び悩んだ。豚肉はしゃぶしゃぶ用が好調、鶏肉は相場が低下傾向にあり、前年並みに回復した店舗が多い。ハム・ソーセージなど加工肉は前年好調の反動もみられた。

4. 惣菜DI：7.6（やや好調）

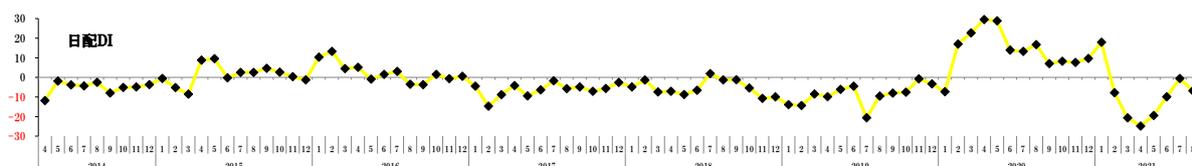
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	2.3	15.6	22.5	43.4	16.2	13.9
惣菜（当月）	6.5	15.5	29.7	38.1	10.3	7.6



外食店の時短営業による家飲み、自宅でのオリンピック・パラリンピック観戦需要として、焼鳥やつまみ類が引き続き堅調に推移。米飯類やベーカリー、寿司類や冷麺類、サラダなどの冷惣菜、揚げ物も好調に推移した。帰省客減少や催事中止により、地方ではお盆時期のオードブルなどが不振となった。バラ売り販売自粛の影響が緩和してきたとのコメントもみられた。

5. 日配DI：-6.8（やや不調）

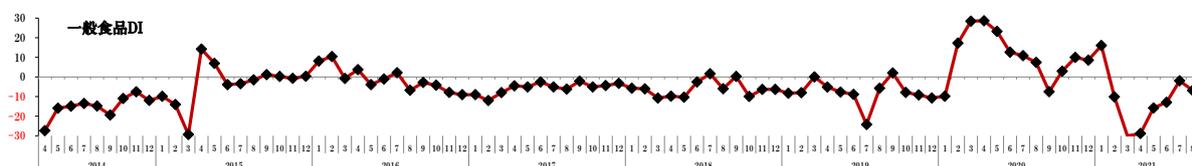
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	9.1	25.0	31.8	27.3	6.8	-0.6
日配（当月）	12.1	31.2	31.2	22.9	2.5	-6.8



利便性や品質向上が評価され、買物頻度を減らす傾向もあり、冷凍食品の動きがよかった。相場高が続く鶏卵にも回復傾向がみられた。一方で前年好調だった納豆やキムチや漬物などの反動減が続いている。中旬以降の気温低下により涼味商材、アイスや飲料、冷やし中華などの麺類が伸び悩む一方、パン類は好調。デザート類は引き続き好調に推移している。

6. 一般食品：-6.8（やや不調）

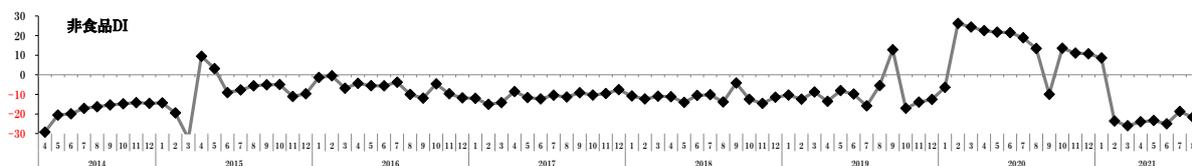
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.7	26.0	32.2	22.6	8.5	-2.0
一般食品（当月）	10.2	35.0	31.8	17.8	5.1	-6.8



天候不良が続く、自然災害の懸念や買物頻度の減少傾向が強まり、保存性の高い食品（米、カップ麺、パスタなどの乾麺類、シリアル、カレー・レトルト類、缶詰など）、簡便商材、菓子類の動きがよかった。自宅調理傾向も拡大しており、油や調味料が好調となった。一方で中旬以降の気温低下により涼味商材、水、飲料は伸び悩んだ。飲食店の時短営業、酒類提供自粛要請やオリンピック・パラリンピック観戦による家飲み需要が継続し、ビールを中心に酒類や珍味などのつまみ類が好調となった。

7. 非食品 DI：-21.6（かなり不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	33.9	25.1	26.9	9.9	4.1	-18.7
非食品（当月）	27.7	37.4	29.0	5.2	0.6	-21.6



マスクやハンドソープ、除菌関連などの衛生用品で特需となった前年からの反動が続いている。ティッシュやトイレットペーパー、キッチンペーパーなどの紙製品についても反動減が大きい。日用雑貨、家庭雑貨は需要が再拡大した。天候不順、帰省を控える動きから行楽・レジャー商品やお盆関連商品は不調となった。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2021年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. 中旬以降の長雨、気温低下
2. 家庭内食事需要の増加（オリパラ観戦）と来客数減（人流抑制）
3. 青果相場乱高下（上旬安値、中旬以降高騰）

（参考）2020年9月調査（8月実績）キーワード TOP3

1. 家庭内消費需要堅調
2. 青果相場高
3. お盆時期の動向（帰省客減少、高温）

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

8月実績速報版 165社
 7月実績確報版 184社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp